HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アイヌ語の条件表現について
Author(s)	佐藤, 知己
Description	北大文学研究科北方研究教育センター公開シンポジウム「サハリンの言語世界」. 平成20年9月6日. 札幌市
Relation	津曲敏郎編 = Toshiro Tsumagari ed.
Citation	サハリンの言語世界 : 北大文学研究科公開シンポジウム報告書, 49-56
Issue Date	2009-03-08
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/38298
Type	conference paper
File Information	05sato.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

サハリンの言語世界（津曲敏郎編，北海道大学大学院文学研究科，2009: 49−56）

アイヌ語の条件表現について

佐 藤　知 己
（北海道大学）

１．はじめに

筆者は佐藤(2008)でアイヌ語の条件表現の概略を記述したが、そこでは単に条件表現の主要部となる個々の接続助詞の用法をごく簡単に述べたに過ぎず、主として実用的な目的のためのものとはいえ、理論的な考察の不足は否めない。一方、日本語の条件表現に目を転じると、関連する個々の形式について詳しく論じられているばかりでなく、体系的、理論的考察の面でも既に様々な提言がなされているようである（益岡 1993a、1993b、2002、前田 1995 など)。以下では日本語の条件表現の研究を参考としながら、日本語との対比を通してアイヌ語の条件表現の特徴について、多少の理論的な考察を試みたいと思う。

２．日本語の条件表現について

アイヌ語の条件表現についてみる前に、まず日本語の条件表現についてみてみることにする。益岡(2002: 73-93)では、日本語の条件節の主な表現形式として、「レバ」、「タラ」、「ト」、「ナラ」の四つが取り上げられて分析されている[1]。

まず、「レバ」についてであるが、「レバ」は次のように「一般的な因果関係」を表す（同: 74)。

(1)　努力すれば報われるものだ。

さらに、このような場合、文末のムードは次のように事態の真偽の判断を表すものに限られる（同: 同所)。

(2)　努力すれば報われるだろう。

また、「レバ」は「特定の時空間に実現する個別的事態」を表すこともある（同: 75)。

(3)　もし彼が来れば、問題は解決するだろう。

なお、この場合、(3)のように動的事態であれば文末のムードは真偽の判断を表すものに限られ、静的事態であれば(6)、(7)のように種々のムードが現れる（同: 75-76)。

(4) ?もし彼が来れば、すぐに会おう。

(5) ?もし彼が来れば、すぐに話をしますか。

(6) もし彼がいれば、すぐに会おう。

(7) もし彼がいれば、会って話をしますか。

なお、「レバ」には「事実に反する仮定」を表す用法もある（同: 77)。

(8)　もっと安ければ買うのに。

[1] 益岡(2002)はこれらの形式について、周辺的な用法と中心的な用法を区別し、場合によっては細かな限定を加えているが、本稿では主要な議論に関わる部分だけを示してあることをお断りしておく。なお、アイヌ語との対照を念頭に置いて、基本的な枠組みを押さえることを目的としたため、ここでは直接引用しなかったが、前田(1995)は先行研究をふまえつつ、これらの形式に関する細かな諸制約を検討したもので極めて有益である。

次に、「タラ」の用法であるが、「タラ」は、まず、「前件が実現の見込みのある事態」を表す。このような場合、文末のムードには制約はない（同: 78-79）。

(9)　目的地に着いたら、すぐに連絡してくれ。

「タラ」には実現するかどうか定かでない「仮定的事態」を表す用法もある。この場合にも文末のムードには制約はない（同: 80）。

(10)　もし試験に合格したら、両親はとても喜んでくれるだろう。

「タラ」には「事実に反する仮定」の用法もある（同: 81）。

(11)　もっと安かったら、買うのに。

「タラ」には次のような「事実的用法」もある（同: 81）。

(12)　家の外に出たら、突然大きな音がした。

次に「ト」については、まず「事実的用法」があげられる（同: 83）。

(13)　太郎は部屋に入ると、ハンガーに服をかけた

「ト」には「反復される事態」を表す用法がある（同: 85）。

(14)　太郎は酒を飲むと、顔が赤くなる。

「ト」には「法則的事態」を表す用法がある。

(15)　ある命題の対偶をとれば、その真偽値はもとの命題と同じである。

「ト」には「仮定の事態」を表す用法がある（同: 85）。

(16)　もしこの問題が解決すると、両国の関係は大いに改善されることになる。

「ト」は反事実的条件を表せない（同: 86）。

(17) ?もっと安いと、買うのに。

益岡は、「ト」のこれらの用法を「二つの事態の並列的結合」という表現で一括している（同: 87）。

最後に「ナラ」であるが、益岡は「前件においてある事態を真であると仮定し、後件において表現者の判断・態度を表す」と述べている。

(18)　妻が賛成してくれるなら、私は新しい仕事を始める。

以上の益岡の日本語の条件表現に関する考察の中で特に注目されるのは、文末のモダリティーに関する制約である。次に、アイヌ語の条件表現について概観し、併せて文末のモダリティーに関わる制約に触れながらアイヌ語と日本語の条件表現を対照してみることにする。

３．アイヌ語の条件表現と日本語の条件表現との対照

アイヌ語の条件表現は通例、接続助詞によって形成される[2]。佐藤(2008)では、条件表現

[2] アイヌ語には方言差があり接続助詞についてもかなりの方言差があると思われる。ここでは千歳方言を例として論ずるが、今後、他方言も視野に入れてより一般的な分析を行う必要があると考えている。本稿における議論は従ってアイヌ語の条件表現の一般的な特徴付けというよりはむしろそのための問題提起、という位置付けのものであることをお断りしておく。なお、千歳方言の例はすべて故白沢ナベ氏からご教示いただいたものである。ここに記して感謝の意を表したい。ちなみに、アイヌ語の接続助詞の記述的研究は既に田村（1988、1996）が詳細に行っており、本稿の議論もそれらに多くを負っていることを付記する。

を表す主な接続助詞として ciki、kor、yak、yakun、yakne（以上、仮定的条件）[3]、akusu、awa（以上、事実的条件）をあげた。ここでは、用例が少ない cik、および口承文芸のテキストに主として現れる yakne、awa を除いて述べることにする。

まず、ciki は益岡の「個別的事態」の仮定を表すが、その際、文末のムードに制約があり、原則として疑問、命令のムードが現れる。

(19) makanak ku-ytak ciki pirka ruwe an?
どう 私が-言う ば よい 事 ある
「私はどう言えば（言ったら）良いのだ？」

(20) eci-kor amip ne ciki uwomare yan.（同: 48）[4]
お前達が-持つ 着物 である ば 片付ける なさい
「お前達の着物であれば（だったら）片付けなさい。」

kor は益岡の「一般的な因果関係」を表すのに用いられる

(21) sironuman kor cikap utar iwak.（同: 49）
暗くなる と 鳥 達 帰る
「暗くなると鳥達は（ねぐらに）帰る。」

kor は益岡の「個別的事態」の仮定を表すのにも用いられる。ただし、文末にはムードの制約があり、疑問詞疑問文で用いられるのが通例である[5]。

(22) iyos hemanta ku-ye kor pirka?（同: 同所）
次 何 私が-言う ば いい
「次に私は何を言えばいい？」

yak は後に pirka「良い」、wen「悪い」を取って、「すれば良い」、「してはいけない」のような慣用句的表現をなして用いられることが多い。また、意味的に良否の判断と近い内容の表現が来る場合もあるようである[6]。聞き手に対する働きかけの意味を含んでいるのが通例なので、これも一種の文末のムードに関する制約と言えるであろう。

(23) pirkano e-tese yak pirka na.（同: 50）
きれいに お前が-編む ば 良い ぞ
「きれいに編んだらいいよ（編みなさい）。」

(24) puyne eci-e yak wen na.（同: 50）
自分だけで お前達が-食べる ば 悪い ぞ
「自分だけでたべたらだめだぞ。」

---

[3] 佐藤(2008)では、kor を仮定的、事実的両方に用いられるとしてあるが、kor の事実的用法はかなり稀であるのでここでは議論を単純化するために kor の仮定的用法のみを問題とすることにする。

[4] ここでは議論の便宜上、原文をそのまま引用するのではなく、語注や訳に修正を加えてある。また、出典を示していないアイヌ語の例文は新たに補ったものである。

[5] 益岡(2002: 76-77)は、「どのバスに乗れば北町に行けますか。」という例をあげて、通常は真偽判断のモダリティーしか取れない動的事態に続く「レバ」が疑問語を含む場合は疑問のモダリティーと共起できることを指摘している。これはアイヌ語の kor にもある程度共通する現象と言える。

[6] ここでは(25)の「帰る」を「良いこと」として解釈したが、良否判断とは無関係な例文である可能性もある。確証はないが、いわゆる「裏」の意味（「おすそわけせずには帰れない」）を強調するようなニュアンスが表現されているのかもしれない。

(25) tan kam ku-mitpoho ku-komekari yak
この 肉 私が-孫 私が-おすそわけする ば
ku-hosipi.
私が-帰る
「私はこの肉を孫におすそわけしたら（満足して）帰る。」

(26) eytasa e-mokor yak e-sapa arka na.
あまり お前が-眠る ば お前が-頭 痛い ぞ
「あまり寝過ぎると頭が痛くなるぞ。」

yakun は非常に用例が多い。「個別的事態」の仮定に用いられる。文末には「真偽判断」（例文(27)）のみならず、命令（例文(28)）、意志（例文(29)）、疑問（例文(30)）のようなムードも現れる。

(27) sirkunne yakun suy ruyanpe an nankor.（同: 51-52）
暗くなる ば また 嵐 ある だろう
「暗くなったらまた嵐になるだろう。」

(28) e-ype rusuy hawe ne yakun
お前が-食事する たい 話 である ば
tan kaboca e.
この カボチャ 食べる
「お前が腹が減ったというのであればこのカボチャを食べろ。」

(29) ku-yyoski yakun oro wa suy
私が-酔う ば それ から また
ku-ye kus ne wa.
私が-言う つもり である よ
「私は酔ったらその後でまた言うつもりだよ。」

(30) eci-mososo a eci-mososo a hike ka
私がお前を-起こす た 私がお前を-起こす た て も
e-hopuni ka somo ki yakun
お前が-起きる も ない する ば
ku-yruska yakun neun an iruska
私が-怒る ば どう ある 怒り
totto ki ya a-eramuan?
母 する か あなたが-わかる
「私がいくらお前を起こしても起きないのならば私が怒ったらどういう怒りをお母さん（私）がするかあなたはわかる？」

以上のものは仮定的な事態の表現を主な用法とするものであったが、これに対し、akusu(akus)は事実的な条件を表すものである。

(31) kanpi ku-sanke ruwe ne akusu
手紙 私が-出す 事 である たら
itasakanpi ek ruwe ne.（同: 47）

返事　　来る　事　　である

「私は手紙を出したのであるが、返事が来たのであった。」[7]

(32) aep　or　un　neko　tekehe　turi　　wa　kusu

食物　所　へ　猫　　手　　伸ばす　て　ために

ponno　sapaha　ku-kik　　akusu　tekehe　yoni.

少し　頭　　私が-たたく　たら　手　　引っ込める

「食べ物へ猫が手を伸ばしたのでちょっと頭を私がたたいたら手を引っ込めた。」

この程度の数少ない材料から、アイヌ語の条件表現を日本語と対比することが大変難しいことは言うまでもない。しかし、それを承知で仮説的な面も含めて述べれば、まず、日本語の条件表現もアイヌ語の条件表現も、明らかに文末のムードとの関わりを示す点が注目される。しかしながら、少なくとも現時点においては、日本語の条件表現とアイヌ語の条件表現とでは、細部の条件が微妙に異なり、そのままでは単純な対応関係を容易に見いだし難いようである。上で挙げた例文のみに限定しても、その対応はかなり錯綜したものとなる（図１）。

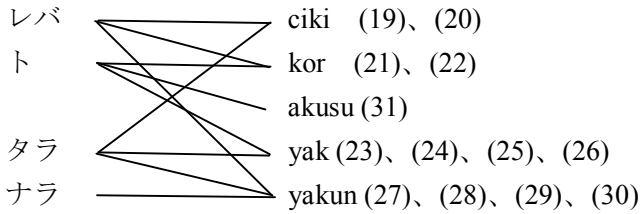

図１

もっとも、これらのうち、主に疑問、命令に使用が限定されている ciki、疑問詞と共起する kor、良否表現と共起する yak、事実的条件を表す akusu のように、使用条件が比較的明確なものを除いて考えると、対応関係はかなり単純化される（図２）。

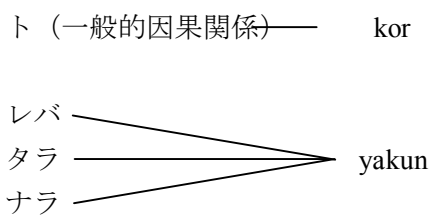

図２

すなわち、yakun の用法が最も複雑で、アイヌ語の条件表現の理解において、この形式

[7] 「手紙を出したら返事が来た」という意味だが、条件表現の前に ruwe ne「のだ」が来ている。日本語の事実的条件を表す「と」、「たら」が前に「のだ」を取れないことを比較すると興味深い例かもしれない。

の用法を詳細に検討することが必要であることを示している。つまり、yakun は広い用法を持つので、日本語のレバ、タラ、ナラの使い分けのような問題は生じないわけであるが、翻訳等に際して、いずれの意味なのかを決めることは、相当厄介な問題を伴うことが予測される[8]。

次に、より一般的な問題に関して言えば、日本語の条件表現では、ムードの制約において、「真偽判断のムード」がより中心的な位置を占めているように見える（すなわち、「真偽判断のムード」しか取り得ず、他のムードを排除する条件表現がある）のに対し、アイヌ語の条件表現においては「真偽判断のムード」は必ずしも優先的な地位を占めていないと言えるのではないか（すなわち、「真偽判断のムード」しか取り得ない条件表現というものはないようである）。その代わり、アイヌ語の条件表現においては、「命令」、「疑問」のムードを文末に指定する用法を持つ条件表現が見いだされる（ciki、kor）という点が、日本語との目立つ対比点として浮かび上がってくると言える[9]。この指摘がもし正しいとすれば、条件表現の一般理論の見地からも、興味深い問題を含んでいる可能性がある。例えば、益岡(1993b: 27, 34)は、レバ形式、タラ形式、ナラ形式はそれぞれ、命名のレベル（例：雨が降る）、現象のレベル（例：雨が降った）、判断のレベル（例：雨が降ったようだ）における条件を表現し、概念レベルの違いを投影する、と主張している。もしこの仮説がアイヌ語の条件表現においても当てはまるとするならば、おそらくは「命令」、「疑問」のようなムードは「判断のレベル」のさらに外側に位置するものと考えられるので、理論上は命令や疑問を要求するアイヌ語の条件表現は、それよりも下位の概念レベル（すなわち、より「内側」に属するレベル）に位置する「命名、現象、判断」レベルの表現とも共起可能なはずであるが、これまでのところそのような仮説を支持するような事例（ciki や kor が命令や疑問以外のムード表現と共起する例）は筆者の資料中には見いだされていない[10]。これがアイヌ語の側の個別の事情によるものなのか、あるいは「命令」、「疑問」のようなムードの一般的な位置付けの問題に帰されるものなのか、今後、さらに他の問題も含めて

---

[8] 特に、動詞に「ル」形と「タ」形のようなテンスに関わる形態上の区別がないアイヌ語において、「レバ」と「タラ」、「ルナラ」と「タナラ」などの違いがどのように表現されるのかは明確になっているとは言い難い。例えば、「彼が死んだら私も生きてはいられない。」と「彼がもう死んでしまったなら私も生きてはいられない。」をアイヌ語でどう表現仕分けるのかはそれほど容易なこととは言えないであろう。これらを含め日本語とアイヌ語の条件表現相互の対応の細部については問題が多い。後者のような事例は、過去（あるいは完了）の事態の仮定を含むもので、それほど一般的な状況ではないためかこれまでのところ実例が少ない。佐藤（近刊）には、a-poho ray ay yakun ray-an「私の息子が死んでいるのならば私は死ぬ。」、a-kor hekaci an an yakun…tane pakno poro hekaci「私の男の子が生きていたなら今くらいの大きさである男の子」という例が現れているが、例が少ないために性質が明らかでない点が多い。今後の検討課題としたい。

[9] もっとも、この差異が本質的なものかどうかは議論の余地がないわけではない。例えば、アイヌ語で kor が一般的因果関係を表す場合、当然、文末には真偽判断のムードは現れない。他方、日本語においても「ナラ」の後に来る表現はかなり限られていて、命令表現のようなものが現れやすい傾向にあるようである。従って、アイヌ語と日本語とで条件表現に関して文末のムードに根本的な差異があるかどうかはなお検討を要する点が多いと言える。

[10] kor は「命名のレベル（一般的因果関係）」の表現にも用いられるが通例は「現象のレベル」、「判断のレベル」と共起しない、という点を考えるとやはり「概念レベル」ときれいに対応しているとは言い難いであろう。

検討する必要があろう[11]。

４．おわりに

以上、極めて概略的ではあるが、日本語とアイヌ語の条件表現を対比してみた結果、その対応はかなり錯綜しており、特に yakun という形式が相対的に広い用法を有し、記述に際して注意が必要であることがわかった。また、文末のムードに関わる制限を共に有していながら、両言語間に大きな性質上の差異のある可能性を指摘し、その理論的意義についても簡単に述べた。今後もアイヌ語の条件文の前件、後件に含まれるモダリティーの性質についてさらに事例を収集し、検討を行いたいと考えている。

参考文献

亀井孝・河野六郎・千野栄一（編）(1988)『言語学大辞典（1)』三省堂.
佐藤知己 (2008)『アイヌ語文法の基礎』大学書林.
———— (近刊)「アイヌ語千歳方言の昔話(uwepeker)テキスト「我が子を樹洞に監禁した女の話」とその言語的特徴」北海道大学大学院文学研究科言語情報学講座（編)『門脇誠一教授退職記念論集』北海道大学出版会.
田村すず子 (1988)「アイヌ語」亀井他編『言語学大辞典（1)』6-94. 三省堂.
————— (1996)『アイヌ語沙流方言辞典』草風館.
野田尚史・益岡隆志・佐久間まゆみ・田窪行則『複文と談話』73-93. 岩波書店.
北海道大学大学院文学研究科言語情報学講座（編）（近刊)『門脇誠一教授退職記念論集』北海道大学出版会.
前田直子 (1995)「バ、ト、ナラ、タラ」宮島達夫・仁田義雄編 (1995)『日本語類義表現の文法（下)』483-495. くろしお出版.
益岡隆志 (1993a)「日本語の条件表現について」益岡編 (1993)『日本語の条件表現』1-20. くろしお出版.
———— (1993b)「条件表現と文の概念レベル」益岡編 (1993)『日本語の条件表現』23-39. くろしお出版.
———— (2002)「条件表現」野田尚史・益岡隆志・佐久間まゆみ・田窪行則『複文と談話』73-93. 岩波書店.
益岡隆志編 (1993)『日本語の条件表現』くろしお出版.
宮島達夫・仁田義雄編 (1995)『日本語類義表現の文法（下)』くろしお出版.

[11] 今後も精査する必要はあるが、条件表現の後に諾否疑問文が現れる確実な例は今のところ見いだされていない。また、「判断のレベル」に属する条件表現とされる日本語の「ナラ」に当たるような専用の形式もないようである。さらに、「事実に反する仮定」の表現についても不明の点が少なくない。

Conditional Expressions in Ainu

Tomomi SATO
(Hokkaido University)

It is known that Japanese conditional expressions often require particular modal expressions in the sentence-final position. Roughly speaking, it has been said that among those sentence-final modal expressions, the epistemic modal expressions are assigned the most important status in Japanese conditional expressions. However, in Ainu conditional expressions, although they often have modal restrictions on sentence-final moods just like Japanese, the nature is rather different between them: in Ainu, some conditional expressions require the interrogative and imperative modal expressions only, so the epistemic mood does not necessarily play a crucial role. This fact may cast doubts about the generality of the "conception level" often used in the study of the Japanese conditional expressions. In addition, by contrasting Japanese and Ainu, it is shown that *yakun* is the most important among the Ainu conditional expressions since it has extremely wider usage corresponding to that of at least three different conditional expressions of Japanese.